

令和4年度 潟を踏もうぜプロジェクトで見つかった干潟の生物

令和4年9月24日（土）実施

22種の生物を発見、そのうち**13種**が環境省レッドデータブックに掲載されている種でした。

出現種一覧

No.	門	綱	種名	生息環境	絶滅危惧種カテゴリー	
					環境省	佐賀県
1	軟体動物門	腹足綱	ヒロクチカノコガイ	護岸、植生	NT	NT
2			ワカウラツボ	砂泥干潟	VU	CR+EN
3			アズキカワザンショウガイ	護岸、植生	VU	NT
4			トライミズゴマツボ	泥干潟		
5			オカミミガイ	護岸、植生	VU	CR+EN
6		二枚貝綱	マガキ属	護岸		
7			ウネナシトマヤガイ	護岸、カキ礁	NT	
8			ハナグモリガイ	泥干潟	VU	NT
9			ヒラタヌマコダキガイ	泥干潟		
10	環形動物門	ゴカイ綱	アリアケカワゴカイ	泥干潟	EN	
11		貧毛綱	イトミミズ亜科	泥干潟		
12	節足動物門	軟甲綱	キタフナムシ	護岸		
13			シバエビ	砂泥浅海域		NT
14			マングローブテッポウエビ	泥干潟	NT	
15			アリアケガニ	植生、泥干潟	VU	VU
16			アリアケモドキ	泥干潟		
17			ヤマトオサガニ	泥干潟		
18			シオマネキ	植生、泥干潟	VU	VU
19			クシテガニ	植生、泥干潟	NT	
20	脊椎動物門	硬骨魚綱	ムツゴロウ	泥干潟	EN	
21			トビハゼ	泥干潟	NT	NT
22			ウロハゼ	河川感潮域		

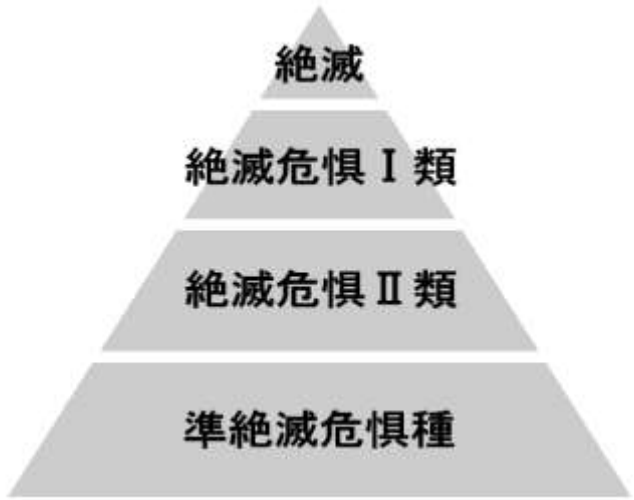
レッドデータブックとは・・・

野生生物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、絶滅のおそれのある種を選定し、リストにまとめたものです。環境省（国）、県とそれぞれ取りまとめが行われています。

カテゴリについて・・・

- 絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）：絶滅の危機に瀕している種です。
- 絶滅危惧ⅠB類（EN）:近い将来における絶滅の恐れが高い種です。
- 絶滅危惧Ⅱ類（VU）：絶滅の危機が増大している種です。
- 準絶滅危惧（NT）：現時点では絶滅危険度は小さいですが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種です。

※**赤太文字**で標記の種は次ページで詳しく紹介します





ムツゴロウ（環境省：EN）と シオマネキ（環境省、佐賀県：VU）

有明海のアイドルムツゴロウと片方だけハサミが大きいシオマネキです。ムツゴロウは日本では有明海と八代海の一部でしか見ることができません。体の青い斑点とハート形の目がとてもかわいらしいハゼの仲間です。シオマネキはまるで「潮を招く」ようなダンスを踊ることからその名前が付けられたと言われています。大きなハサミはオスだけに見られる特徴で、メスのシオマネキは左右同じ大きさのハサミです。オスの大きなハサミは左右どちらになるかは決まっています。

アリアケガニ（環境省、佐賀県：VU）

干潟の中でも岸に近い環境に生息しています。河岸の埋立、護岸工事の影響を強く受けるため有明海でも激減しています。「がん漬」という塩辛の材料になり、脚の先端が赤いのが特徴です。体の片側を持ち上げて振り下ろす、相撲のしこを踏むような特徴的な動きをします。



ワカウラツボ（環境省：VU、佐賀県：CR+EN）

河口部のヨシ原付近の湿地、泥底転石下など、還元的（嫌氣的）な環境を好む貝です。護岸工事などの影響を強く受ける種で、なかなか採取されないことから「幻の貝」とされてきました。



オカミミガイ（環境省：VU、佐賀県：CR+EN）

内湾奥のヨシ原泥底の表層に生息します。肥前鹿島干潟でも植生のある箇所で見られました。大きさは約35mmでオカミミガイ科としては最大の種となります。こちらも護岸工事等の影響を強く受ける種で絶滅が心配されています。